

健康のヒケツ

町民が健康のヒケツを伝授します



健康のヒケツは
「からだ全体を使った運動をすること！」

かわの みちと
河野 通登 さん・北川原 (83歳)

「90歳までバタフライで泳ぎたい！」そう話してくれたのは、笑顔がとても素敵な河野通登さん。毎日30分、25mを息継ぎなしで泳ぎ切る練習を欠かしません。

河野さんが大切にしているモットーは、「寝たきり、糖尿病、高血圧、認知症、メタボにならないこと」と話します。会社勤めをしている時から多趣味でしたが、退職後に大病を患ったことがきっかけで健康について考えるようになりました。

70歳まではシニアソフトボールチームに所属していましたが、その後、今まで全くやったことないことにチャレンジしようと思ったのはスイミングクラブ。そこで同年代の方が楽しそうに泳いでいる姿を見て、自分にも出来る！と水泳を始めたそう。最初は苦労しましたが、良いコーチにめぐり合い、基礎をしっかりと叩き込んだことで、今ではバタフライが得意種目です。一昨年は、マスターズの大会にも得意のバタフライで出場しています。今後は、バタフライ以外の種目でも大会に出場したいと話します。

運動をすると、食事や睡眠も改善されると話してくれ、新しいことを始める一歩に勇気を持って！と健康のヒケツを伝授してくれました。



①話好きの河野さん。
色々な体験談を話してくれました②とてもきれいなバタフライのフォーム

Boys&Girls,Be

Ambitious!

頑張る子どもを紹介します

Kids

岡田中2年

ふじた そう
藤田 颯 さん

「たくさんの人からの応援を胸に勝利をつかむ」

岡田中学校2年生の藤田颯さん。愛媛ジュニアソフトボールクラブに所属し、昨年11月16、17の両日、高知県で行われた「第30回四国中学校ソフトボール新人大会」で優勝しました。「3連覇のプレッシャーはあったけど、優勝できてうれしかった」とほほ笑む颯さん。レフトを守り、「ランナーをホームに返さない」という強い気持ちでプレーしました。

小学校3年生からスポ少でソフトボールを始めた颯さん。チーム全員で力を合わせ勝利するため、試合中は積極的に声を出し、チームの雰囲気大切に練習に励んできました。そんな颯さんの宝物は、たくさんの人からもらったアドバイスやエール。「チームの仲間、家族、監督、コーチ、いろいろな人に支えてもらってここまで続けてこられた」と振り返ります。

颯さんの次の目標は、「全国中学校体育大会で優勝すること」。これからも努力を惜みません練習に励み、チームみんなで力を合わせ、勝利に向かって突き進みます。



Health

今回は私が、神崎地区の戦中戦後の行事と暮らしをまとめた「神崎の年中行事と生活文化」について紹介します。

高石 勤 さん
Takaishi Tsutomu



松前の魅力 伝え隊

町民が松前町の魅力を取材します

「北伊予の伝承」や「かんざき塾」で、北伊予地区の歴史や行事、伝承をまとめてきましたが、足元神崎の年中行事や暮らしに焦点を当てたものではありませんでした。そこで、元かんざき塾スタッフで「神崎有志の会」を立ち上げ、戦中戦後の行事と暮らしについて座談会を開催し、生の声を聞き、時代の移り変わりで消えていく記憶を後世に残すため、「神崎の年中行事と生活文化」という冊子を刊行しました。その中から今では珍しくなったものについて紹介します。

- ・お正月には各家ごとに門松や手作りのしめ飾りを飾った。
- ・お正月の子どもの遊びは、外ではたこ揚げ、こま回し、羽根つき。内ではトランプ、すごろく、一部では百人一首。
- ・4月4日のお節旬は、しょうゆ餅、ようかん、りんまん、巻さずしが定番。普段食べられないごちそうをお重に詰めて川沿いや広場で食べた。
- ・田植えは農家の一大イベント。子どもは朝5時から7時まで手伝い、それから学校へ。晩の9時ごろまで手伝った。
- ・苗代の砂を松前の浜へリヤカーで取りに行く手伝いをした。
- ・小中学校は麦刈り、田植え、稲刈りの3回、農繁休業があった。非農家の人は遊べていいなとうらやましかった。

▼編集後記
まさか私が広報担当者には!?と予想もしなかった異動先に戸惑いながら始まった4月でした。初めての一眼レフカメラにあたふたし、初めての取材や編集にバタバタしましたが、無事に完成してホッとしています。今後、自分にどれだけ伸びしろがあるか楽しみながら、みなさんのたくさんの笑顔に会いに行きたいと思っています。(奥山)

4月から採用、そして広報担当になり、就職1週間で一眼レフを持って入園式に向かいました。小さい子と関わる機会がなかなかなかったため、最初はどうか話しかけてよいかなかなか分らなかったのですが、「一緒に遊ぼう」「写真撮って」と声をかけてくれました。広報に掲載することはできなかったものの、たくさんの素敵な写真を撮ることができました。これから精一杯頑張ります。(藤川)

近所の
ま
キラキラ
まさき人



このコーナーは、広報担当者ではなく町民の皆さんがカメラを持って、松前町の魅力を取材します。取材してくれる人を募集中です。詳しくは、総務課広報広聴係 ☎ 985-4132 に連絡を。

Reporter

- ・伊予神社の夏祭りは村芝居があり、参道の両側にたくさんのお店が出てにぎやかだった。昭和20年代の輪越しは今よりもはるかに盛大だった。
- ・秋祭りのみこし巡行は、今よりずっと入れる家も多く大勢の人が出迎え、にぎやかだった。当時、女の子は着物を着て見るだけだった。平成17年には獅子舞の太鼓は女の子がたたいている。祭りも変わったものだ。



▲座談会に参加したメンバー

終戦から80年がたち、戦後の間もないころの行事や暮らしを知る人が少なくなりました。特に、高度成長期を境に神崎の行事も暮らしも他の地区と同様、随分様変わりしました。今こそ、薄れかけていく記憶を記録にとどめ、伝統ある神崎の当時の姿を後世に伝承しなければなりません。愛するふる里神崎のために！